

「いじめを見て見ぬふりせず、声を上げられる学校づくり」につながる取組

(問題意識)

- ◆ いじめについては、「いじめを見たり、聞いたりした時、どうしましたか」との質問に対し、「何もなかった」と回答する子供が多いとの調査結果が示されている。(※ 「何もなかった」49.0%)
- ◆ また、「いじめを見ている理由」についての質問に対し、「関わりをもちたくないから」「自分がいじめられたくないから」との理由を挙げている子供が多く割合をしめているとの調査結果が示されている。(※「関わりをもちたくないから」85.4%、「自分がいじめられたくないから」80.8%)
- ◆ こうした調査結果を受け、子供が「いじめについて大人に伝えても守ってもらえる」と思える学校づくりを行うことは、極めて重要な取組であるといえる。このため、被害の子供・周囲の子供の安全確保や、いじめは生命や心身に関わる人権問題であることを繰り返し伝え、考えさせるを通じ、周囲の子供が勇気をもっていじめを伝えるように促していく。

※調査結果は、【参考1】「いじめに問題に関する研究」東京都教職員研修センター より引用

都教委の取組

都教委は、区市町村教委や学校と連携して子供たちの意識を変え、子供が声を上げられるよう、以下のような取組を実施

- 「いじめ総合対策チェックシート」の作成・配布
- いじめに係る研修や「いじめに関する授業」のためのプログラムの開発・活用
- いじめに対する具体的な行動のとり方や相談先などを記載した「いじめ防止カード」の作成・配布
- 「いじめ防止カード」等を活用し、著名人(オリンピック等)と一体となって子供たちを啓発

など

区市町村教委の取組

区市町村教委は、学校の取組を支援するため、以下のような取組を実施

- 都教委の研修プログラムを踏まえた、若手教員から管理職の各職層ごとの研修の実施
- 事案に応じて、指導主事やスクールカウンセラー等を学校に派遣
- 都教委作成の「いじめ防止カード」等を用いた啓発活動への連携・協力

など

学校の取組

学校は、「いじめを見て見ぬふりせず声を上げられる学校づくり」に向けて、以下のような取組を全力で実施

- 周囲の子供が勇気をもっていじめを伝えるようにするために、「いじめを見たら伝えなさい」と一方的に指導するだけでなく、子供が「いじめについて大人に伝えても守ってもらえる」と思えるよう、学校は、保護者や地域の協力も得ながら、子供の安全を確保
- 日常的な観察、面接や調査等により、子供の実態を早期に把握
- いじめに関する授業等を通じ、いじめは生命や心身に關わる重大な問題であることを繰り返し伝え、考えさせるとともに、子供たちの主体的な取組の支援を通じ子供の「いじめを見て見ぬふりしない」意識を醸成

○いじめから子供を守り通す取組

- ・登下校時の付き添いなどによる周囲の子供の安全の確保
- ・地域人材や関係機関を活用した子供の見守り
- ・保護者会の開催やPTAの活用

など

○早期の実態把握に係る取組

- ・スクールカウンセラーによる全員面接の実施
- ・「生活意識調査」や「いじめ実態調査」の実施
- ・「いじめ実態調査」等を通じて把握した情報の共有を徹底
- ・定期的な個人面談の実施

など

○子供の意識を醸成する取組

- ・「いじめに関する授業」の実施
- ・「言葉の暴力撲滅キャンペーン」等児童会・生徒会等による主体的な取組の支援
- ・「いじめ防止カード」の活用

など